



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 大町 慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

聞くことの大切さに気づく

石川 正生



〈略歴〉
一九三四年、富山県生まれ。
大谷大学卒業後、真宗大谷派
教学研究所勤務。宗議会議員、
参務を務める。現在、富山教
区玉永寺前住職。

真宗門徒の家には、外
から見ても分かる三つの
宗風があるといわれる。
それは本願寺八代蓮如上
人の頃からで、ご門徒の
人達は、一つには「よく
聴聞する」。二つには「朝
夕の勤行をする」。三つ
には「物忌みはしない」
である。

しかし、時代の流れと
共に、その宗風が真宗門
徒の家から遠ざかること
が今日見られるように
なった。
それは、ご門徒の家々
だけでなく寺院の仏事に
ついて同じことが言え
る(地方によって違いが
あるが)。ご門徒の家庭で
は、朝夕のお参りが失わ
れ、先祖が聞法道場とし
て受け継いできた家がど
うなっているか案じられ
る。そのうえ、祈祷宗教、
迷信などにまどわされ、
仏法によって育てられて
きた人間の温かさが失わ
れていくさみしさを感じ
る。

私が本山で仕事をして
いたとき、お朝事が終わ
り御影堂前になると、若
い男女が「お札を売って
いるところはどこですか。」
とたずねてきた。何のお
札かときけば、「交通安全
全」、「合格祈願」、「無
病息災」、それに何時か
ら「水子供養」が勤まる
のかの問い合わせだった。
「ここ東本願寺ではお札
とか、水子供養のお勤め
はありません。」という
と、「へえ、けったいな
寺やな。」と帰っていつ
ものほどこにあるのか。

声となって聞こえてくる。
声となつて呼びかけてく
る。「そのことを「私たち
地方のお年寄り親鸞聖
人の教えを、如来さまの
お呼び声として聞いた」と
言っている。であるなら、
「私たちは親鸞聖人の
の教えを声として、ただ
いまの身に呼びかけ声と
して聞いているか、たずね
てみなければならぬ……」
(『御教の一途を心底に
徹する』より)と厳しい
言葉をいただいた。親鸞
聖人や蓮如上人の声とし
て耳に聞こえるなら立ち
上がるに違いない。しか
し自分の分別で聞こうと
するからほんとうの現実
が見えてこないのだと案
じてくれた。若くして
還浄した松本法兄に頭
が下がった。

富山の岩瀬に吉田源之
助さんという念仏者がお
られた。そこに天保十年
に書かれた家訓が残って
いる。
家訓の書き出しは「今
死」で始まっている。今
日では生死一如のいのちの
事実を受け止めず、生と
死を分離させ、延命を願っ
て生きている人が多くなっ
た。しかし、死は誰一人
逃れられない。その事実
を受け止め、死すべきい
のちが何を願って生きる
べきかをこの家訓から見
つめたい。

真宗大谷派大谷婦人会高山支部
100周年記念大会

高山のご門徒皆さまには、日々仏法聴聞にお励みのこととお慶
び申し上げます。
真宗大谷派大谷婦人会は、創立百二十五五年の歴史がございます
が、高山支部は高山別院に大正四年に創立され、本年百周年を迎
えられました。
創立九十周年記念法要をお勤めくださいました十年前、お御堂
にあふれるほどの会員さまをはじめ、別院ご関係の方々とご一緒
にお参りさせていただきましたことを思い返しております。
浄土真宗のお師匠さまのお一人である中国の道綽禪師さまは、
前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、
連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。
とお説きくださいました。皆さま方が、高山支部発足以来先輩方
のお導きによって、百年のあいだ聞法一路の大谷婦人会活動を受
け継いで、今に、そして次世代に繋いでくださっておりますこと
を大変有難く思います。
五月十一日の創立百周年記念法要に、皆さまとご一緒にお参り
できますことを楽しみにいたしております。

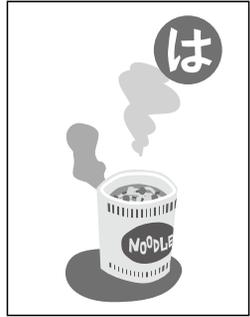
大谷婦人会とは
大谷婦人会は明治23年に創立されま
した。現在、大谷暢頭門首夫人・大谷
妙子氏を会長として『聞法一路』の精
神のもとに教化活動を行っています。
全国に約300の支部があり、高山支部は
その中のひとつです。
高山支部は今年100周年を迎えます。
報恩講、月々の定例聞法会などが、今
日まで絶えることなく相続されています。
高山支部の活動
毎月11日 定例聞法会
1月11日 新年互礼会
4月11日 追弔会・総会
6月25日 婦人研修会
(坊守会と合同)
26日 佐奈姫忌法要
11月11日 報恩講
日程
二〇一五年 五月十一日(月)
正午 受付
午後1時 支部創立100周年記念
法要
並びに全会員物故者
追弔法要
午後2時 記念式典
午後3時15分 記念法話
高山別院輪番
大町慶華
午後4時 閉会
会場 高山別院 本堂
物故会員追弔法要・総会
日時 3月11日(水) 午後1時~
会場 高山別院 本堂
※4月の総会が3月に変更になりました。

☎テレホン法話(0577)(34)2313 ☎2月21日~28日:中飯田正夫氏「實蓮寺」 ☎3月1日~10日:窪田純氏「圓徳寺」 ☎3月11日~20日:江馬雅人氏「賢誓寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

女と男の

ナムアミダブツ⑥

藤場 芳子



は 母不在 父と子どもは 骨休め

ぼくんちのかあちゃん

「ぼくんちで一番いばっているのはかあちゃんです。とうちゃんよ

りずとおつかないし、いばっていただきます。今日も朝からガミガミうるさくって、ぼくは腹がたちました。」

これは『かあちゃん取扱説明書』(童心社)という児童書の中で、小学校四年生のでつや君が書いた作文の一節です。「わかるなあ、うちと同じだ」とうなづく人もいれば、「これって私のこと?」とドキッとした人もいるのではないでしょ

うか。子どもにとって母親は最も身近な大人であり、母親にとって母が子は自分の分身のような存在なのだと思えます。でも、関係が深ければ深いほど、うつつとうしくなったり、重たかったりしてしま

います。自我が芽生え始めた時に反発したいのは子どもの成長の証であり、親から離れたいと思うのも正直な気持ちだと頭ではわ

かっている、親にとってそれを受けとめるのは容易ではないように思えます。

はなかつた。いつもお父さんかお母さんのどちらかが僕の味方だった」と。つまり夫婦ゲンカの末、どちらかが息子の味方をしたので、自分もいつも両親のどちらかに護られてい

る感じがいたというのです。夫婦が同じ意見というのも場合によっては必要ですが、一人っ子が両親とも敵に回したらとても孤独に感じ

るでしょう。彼の心の安定にとって夫婦が別の意見だったということ

が大きな意味をもっていたことになり。妻の留守に子どもとカップラーメンを食べる夫は妻からすればダメな父親かもしれませんが、子どもからすれば禁断を一緒に破って

くれる同伴者です。夫と妻が違うからこそ子どもにとっては有り難いとも言えるのです。子どもに寄り添う

のは、父でも母でもどちらでもいいのは言うまでもありません。

迷いながら 揺れながら 人は自分にとって大事なものに執着します。家族もその一つです。

喜びはもちろんですが、悲しみも苦しみも時には憎悪さえも起きて

しまいます。お釈迦様はわが子が生まれた時に、「ラーフラ」と名前をつ

けました。意味は「障碍、つまり」さまたげ」ということです。親である

自分の心を穏やかにさせてくれな

いから「さまたげ」というのでしょ

う。大切な存在だからこそ迷い、一生懸命だからこそこれでいいのか

と揺れてしまいます。家族との関わりを通して自分のありようが見えて

きます。家族から見た「あなた」とはどんな存在でしょうか。

一人っ子だった私の知人の話です。彼は大人になってから子どもの頃を振り返って次のように言っています。「我が家では進路や部活のこと

とでもめても、僕が一人になること

飛驒の真宗

伝承散歩⑪ 金森長近と高山(下)

一五八五(天正十四)年、豊臣秀吉の命を受けて飛驒の地を平定した金森長近は、領主として高山の街づくりに取り掛かりました。高山を中心とした飛驒を治めるにあたって、どうしても無視できない存在がありました。白川郷の照蓮寺を中心とした真宗教団です。長近自身、近江金ヶ森の寺内町の力強さを見て育っています。また、一向一揆を討伐したこともあり、織田信長と本願寺が十年にわたり大坂石山をめぐって合戦をしていたことも目の当たりにしています。長近は真宗教団がいかに強大なものなのかを身をもって知っていました。また、長近は本願寺の教如上人と交流があり、親しい間柄だったといわれています。

あつた照蓮寺を鍋山の城の麓に、そして新に城を築いて高山へ移したのです。照蓮寺境内およびその周辺に真宗寺院がつくられ、高山に真宗門徒が増えていきました。長近が飛驒を留守にした際には「城の留守を照蓮寺が守っております」と秀吉に伝えたといわれます。また、長近は武士であると同時に、千利休とも親しく、茶道をはじめ京都の文化に精通している、いわゆる文化人でもありました。京都の町にならって宮川を鴨川のように見立て、丘陵地を東山として寺院を置き、三つの筋を中心とした三町を基盤の目のように作り城下町を形成していきました。

嘉念坊善俊上人法要並びに顕彰会総会

飛驒における真宗の祖、嘉念坊善俊上人の祥月命日に法要と総会を行います。

日時 3月3日(火) 午後1時30分

会場 高山別院 本堂 江馬 雅人氏 (賢誓寺住職)

講題 「お念仏のバトンタッチ 飛驒真宗門徒 700年の伝流」

※聴講自由・無料

お知らせ 今年度の『聖教学習会』(全3回)は、講師の蓑輪秀邦氏の体調不良により中止となりました。

春の彼岸会・永代経法要

亡き人をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月18日(水)〜24日(火) 午後一時から勤行・法話

18日(水) 岩佐 幾代氏(浄永寺坊守)

19日(木) 竹田 雅文氏(東等寺住職)

20日(金) 江馬 雅人氏(賢誓寺住職)

21日(土) 三本 昌之氏(蓮徳寺住職)

22日(日) 大町 慶華氏(別院輪番)



お彼岸期間中、本堂下にて御坊さま名物のおはぎやポストカード、東日本大震災被災地チャリティグッズなどの販売を行います。お参りの際にはぜひお立ち寄りください。